

みんなで
描こう

協働のキャンバス

43



「学生のまち南丹 地域連携フォーラム」を開催しました

地域と学生の連携について考える「学生のまち南丹 地域連携フォーラム」を1月20日、南丹市日吉町生涯学習センター「遊Youひよし」で開催しました。平成26年度から通算4回目となる今回は、地域との交流事業を行っている学生と、学生を受け入れている地域の方から、連携することで得た学びを、それぞれの目線から発表いただきました。



京都学生祭典の取り組み

発表者・奥山佳吾さん

津田栞さん

京都学生祭典は京都市内を中心に、学生によるまちおこし活動を展開し、15周年を迎えられました。

京都を活気付け、来場者に感動を与えることを目的に、みこしやおどり、ファッションショーなどのイベントを開催されていますが、こうした活動は地域の方の理解や協力があって初めてできるものであると考え、パトロールや清掃活動、夏祭りの運営スタッフとしての参加など、地域との交流活動も大切にされています。

奥山さんは、学生祭典の位置付けを「学生がやりたいこと、できること、地域や企業から求められていること」の3つの要素があり、そのどれかだけをやっていても良い結果にはつながらない。取り組み

む上で、理想とする立ち位置は3つの要素が重なり合うところにある」と話されました。

津田さんは、学生が地域活動に取組む意義について「活動で養うことのできるコミュニケーション能力や実行力、行動力、実際に地域社会に貢献した経験が社会へ一歩踏み出すきっかけになる」と話されました。

知井振興会とワークキャンプ

発表者・河野賢司

知井振興会事務局長

「ワークキャンプ」は学生が地域に宿泊し、共同生活を送りながら農作業や雪かきなど地域を応援する活動です。

知井地域の4つの限界集落では、日役（地域での共同作業）に出られる人が限られるなど、地域の人手不足の課題を抱えており、その解決法を探していました。

一方、京都ボランティア学習実践研究会代表を務める華頂短期大

学の名賀亨准教授もワークキャンプの実践の場を探しておられるなか、南丹市社会福祉協議会とのつながりをきっかけに、平成20年から知井地域で実施され、今年で10周年を迎えられます。

ワークキャンプの受け入れにより、用水路の泥上げや高齢者宅の雪かきといった地域課題に積極的に取り組めるようになったほか、「熱意を持って取り組む学生の姿勢を目にした地域の方が、学生との交流の機会が楽しみになっていく様子を感じることができた」と述べられました。



知井振興会 河野事務局長の講演